『生演奏を楽しむ音楽 』

《１》 講座：伝統芸能の魅力 ①**太夫・三味線　（今回、人形遣いは不在）**
《２》 日時：2025(R07)年 07 月 11 日(金) 10 時~12 時
《３》 場所：池田市ナムの広場
《４》 参加者　：受講生:36 名、CA:2 名
《５》 概要：今回は、太夫と三味線のユーモアあふれる説明や実演で大変有意義でした。
なお、人形浄瑠璃は昭和 30 年に重要無形文化財に指定されています。

講師　太夫：豊竹芳穂太夫さん、三味線：鶴澤友之助さん

《６》 人形浄瑠璃の知識
① 人形浄瑠璃とは
定義：浄瑠璃を語る太夫、三味線弾き、人形遣いの三業一体
（文楽とは明治以降の人形浄瑠璃の呼称）
② 人形浄瑠璃の伴奏音楽を義太夫節(ぎだゆうぶし)という。

③　三味線

中国の三弦➡琉球の三線➡16 世紀後半に大阪・堺に渡来

琉球の三線は、ニシキヘビの皮・ツメは水牛の角

三味線は、猫または犬の皮（メス猫のおなかの皮が最高級品）・撥は象牙や水牛など

細棹、中棹、太棹があり、人形浄瑠璃では太棹を用いている。

（津軽三味線も太棹を使用している）

《７》 太夫・三味線の演じどころ

人形浄瑠璃では、さまざまな登場人物（老若男女、武士・町人など）を太夫と三味線が一体となって、演じなければならない。

太夫は、若い人の場合は高音域を用い、老人の場合は低音域にも広げている。

三味線もただ弾いているだけではなく、人の感情を表現したり、太夫の息継ぎのタイミングを考慮している。(太夫を殺すに刀は要らぬ。息継ぎをさせなければ良い。)

≪８≫　太夫の用いている小道具　（腹帯、尻ひき、オトシ）

≪９≫実演

仮名手本忠臣蔵の「裏門の段」の実演で、見ごたえがあった。

演じたあと、一部を受講生全員で練習。

（希望者は一人で発表、とのお誘いがあるも誰も手をあげず）

≪１０≫なお、文楽関係の軽い読み物としては、三浦しおんがおすすめ。

文楽を愛する気持ちが伝わってきます。

三浦しおん

・あやつられ文楽鑑賞(双葉文庫)：エッセイ

・仏果を得ず(双葉文庫）：小説

参考文献

ONCC 伝統芸能 第 3 回 人形浄瑠璃文楽 （北見真智子先生) 2025 年 06 月 11 日

（ブログ担当　3 班 i)